

長野県社会福祉士会 NEWS

第211号
2025/11/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会長 吉澤 利政
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編集▶広報編集委員会
発行部数▶2,450部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacsww.jp HP▶https://nacsww.jp/

「政策提言に向けた学び」～福祉活動委員会の活動紹介～ … 1
災害福祉支援委員会 活動紹介 … 2
ICT活用推進プロジェクトを立ち上げました
ハイフレックス（ハイブリッド）型研修開催のための人材を募集!! … 3
上伊那ブロック学習会 … 4
会員著書紹介 … 4

contents

東信地区学習会 … 5
南信州ブロック学習会 … 5
特集 社会福祉士実習指導者に聞く「社会福祉士実習の現状と課題について」… 6～7
リレーエッセイ … 8
信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～ … 8
今後の予定・編集後記 … 8

「政策提言に向けた学び」～福祉活動委員会の活動紹介～

佐藤 香織（福祉活動委員会委員長）

東信地区の高齢者施設で施設長をしております。
福祉活動委員会では、実践現場の福祉課題を検討・研究すること、それらを社会に発信して社会の意識や政策を変えていくことなどを目標に活動しています。「政策提言に向けた学び」では、高齢者プラン、障がい者プランに加え、専門職として関心を持ちたい福祉計画や社会的関心の高い福祉課題等を学ぶために、障がい者・高齢者・子ども・地域福祉の各部会で専門職として関心を持ちたいことなどを把握し、結果をもとに、セミナー・研修会等を開催し知見を深めていきたいと考えます。会員の皆様、一緒に学んでみませんか？

【障がい者部会】

会員相互のスキルアップと活発な情報交換を

勝山 淳一（部会長）

障がい者部会では、社会福祉士としての専門性を高め合えるよう、学習会の開催等の魅力的な学びの場を提案することで、実践現場である各々の地域での取り組みに反映できる活動ができればと思っています。会員相互のスキルアップと活発な情報交換が促進されるように、皆様の積極的なご参加をお待ちしています！

「障がいがあってもなくても 尊厳が守られる社会」をどう実現するか

竹中 正文（副部会長）

社会福祉法人小諸学舎に勤務し、佐久圏域にあります障害者相談支援センターで相談員をしています。障がいがあってもなくても尊厳が守られる社会をどう実現するかという視点で取り組みたいと思います。よろしくお願いいたします。

【高齢者部会】

圏域を超えてのネットワークづくりを

増田 倫弘（部会長）

高齢者部会では、介護支援専門員の資格を持ち地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に勤務している方が多く、介護保険の動向を共有したり、各ケースについて相談したりと連携することがあります。圏域を超えてのネットワークづくりが今後の課題だと考えています。

学びを“楽しみ”、あらゆる場面で役立つ力に

田村 幸樹（副部会長）

長野市内で介護保険事業所の経営、運営をしています。学びの継続は簡単ではありませんが、委員会では学びを楽しむくらいのスタンスで、あらゆる場面で役立つ力になればと思っています。

【子ども部会】

分野を超えて学び合う機会を

曲淵 紀子（部会長）

こども家庭庁の発足、こども基本法制定等、近年子ども関連施策が注目されていますが、「子どもの権利」の浸透は途上と感じます。当部会では権利を基軸に課題を捉え、分野を超えて学び合う機会を引き続き作ってまいります。

子どもの権利の浸透を

小林 翠（副部会長）

東信教育事務所でチーフスクールソーシャルワーカーをしております。曲淵部会長をはじめ社会福祉士会の皆様と一緒に子どもの権利の浸透と児童生徒を中心とした支援について学びを深めていきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

【地域福祉部会】

会員同士の情報共有の機会を

田中 雄一郎（部会長）

山形村社会福祉協議会で事務局長をしております。社会福祉士として地域福祉（推進）に取り組むための学び・連携の場としていければと考えておりますが、具体的な取り組みができていません。今年度は具体的な活動をひとつでも進めていきたいと考えております。その取り組みの一環として10月9日に「ふっころプランを学ぶ」セミナーを開催しました。長野県地域福祉活動計画としての「ふっころプラン」を学び、グループワークの時間では会員同士の情報共有を図りました。今後も、このような機会を設けていきたいと思っています。

◆災害福祉支援委員会の取組み

本委員会は、県内各支部から選出された11名の委員で構成されており、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、高齢・障がいなど多様な専門分野の関係者が参画しています。

○2017年度、プロジェクトとしてスタート

→ 熊本地震（2016年）における福祉支援の検証と災福ネットおよびDWA T（災害派遣福祉チーム）発足に向けた議論

○2020年度から令和元年台風第19号における支援を検証し、「災害コミュニティソーシャルワーク」について協議

○2024年度、能登半島地震支援のふりかえりおよび検証

※長野県DWA T、災害ボランティアセンター運営支援、復興期にかけての地域支え合いセンターの取組みを検証し、コミュニティを大切にした「災害ソーシャルワーク」について協議

2024年度に「能登半島地震をふりかえる～ソーシャルワークの役割～」をテーマに開催した災害福祉支援セミナーでは、第1部の実践報告、第2部のディスカッション、第3部のまとめのセッションを通して、災害ソーシャルワーク実践に向けたキーワードが次のように整理されました。

○必要な支援の見立て

○関係性の構築

○社会福祉士としてのバックボーン

○エンパワメントアプローチ

○時間・場所・場面を意識したアプローチ

○災害ケースマネジメントの実践

○外部支援者としての“黒子”の姿勢

○個人・世帯・地域・関係機関へのアセスメント

○多職種との協働・チームビルディング

○生活課題・地域課題の把握とアプローチ

○権利擁護・意思決定支援

○保健医療福祉連携および調整・交通整理

◆災害救助法等の改正 ～「場」での支援から「人」への支援へ

2025年（令和7年）7月、災害救助法および災害対策基本法が改正され、新たに「福祉サービスの提供」が救助のメニューに加われました。従来は「災害で居住場所を失い、避難所で生活する人々」が対象と限定されていましたが、今回の改正により、避難所に行かず自宅や車中などで生活する被災者も支援対象として明確に位置づけられました。

これにより、支援の基本理念は「場（避難所）」から「人（被災者一人ひとり）」へと大きく転換し、災害福祉支援への期待と役割が飛躍的に高まりました。

◆災害ソーシャルワークの充実に向けて

本委員会では、この法改正を踏まえ、災害ソーシャルワークの充実を目指し、具体的な手法や事例の研究を進めています。会員一人ひとりの理解を深めるとともに、平時と災害時のソーシャルワーク実践を相互に結びつけ、より発展させていくことに取り組んでいます。

平時の備え、避難生活を支える、生活再建のサポートなど長期間の支援となります。ソーシャルワーカーとして日々実践している「福祉支援」「連携」を災害時に実践できる人材が増えるよう、努力したいと思います。

北原 由紀（災害福祉支援委員会委員長）

<開催予告> ※詳細は1月広報紙に同封予定

2025年度災害福祉支援セミナー

日時：2026年1月31日(土) 10：00～12：00

方法：オンライン

内容：法改正を踏まえ、災害ソーシャルワークの充実に向け改めて能登半島地震をふりかえる

講師：村岡 裕 氏

（社会福祉法人佛子園 常務理事）

ICT活用推進プロジェクトを立ち上げました ハイフレックス（ハイブリッド）型研修開催のための人材を募集！！

長 戸 桜 子（ICT活用推進プロジェクトリーダー）

【長野県社会福祉士会とICT活用の経緯】

理事会と委員会は夜間や土日曜に対面して開催するため、役員は移動時間の負担が大きく、会としても交通費支出が課題でした。役員の負担軽減と費用抑制を目的に2019年からスカイプを使用してのオンライン開催を試みましたが、スカイプはICT（情報通信技術）になじみがないと利用が難しい状況でした。2020年には新型コロナウイルスの災禍で人の集まりが制限され、対面しての研修等を中止せざるをえない中、Zoom（ズーム）など多様なオンラインのツールが発展したため、当会でも早速導入しました。ZoomはICTになじみがなくとも容易に使用できるため、理事会は一度も延期や中止することなく、下半期には全国に先駆けてオンラインによる社会福祉士実習指導者講習会を皮切りに、基礎研修Ⅰ、成年後見人材育成研修等の研修や地区学習会も活発に開催することが出来ました。

コロナ禍が過ぎて、対面が可能となっても、利便性から理事会や委員会の会議等はほぼオンラインで行われ、総会や研修、学習会はオンラインもしくはハイブリッド型（オンラインと対面を組み合わせた研修方法）での開催が増えてきました。

【プロジェクト立ち上げ】

受講者側の参加しやすさを考えると今後、当会での研修等は、ハイブリッド型での開催が増えると考えます。中でもハイフレックス型（オンラインと対面を同時開催する研修タイプ）の開催者側は対面とオンラインの2つの環境を管理するため、しっかりした機材、それを使いこなせる人材と慣れが必要です。そのため、当会では今年度からハイフレックス型の研修運営を専門に扱う人材を確保して研修運営の支援を行うためのプロジェクトを立ち上げました。

【活動内容】

今年6月の総会と福祉まるごと学会の開催支援から本格的に活動が始まりました。10月には福井県と共同開催する子どもアドボカシー講座のハイブリッド開催時の長野サテライト会場の当日の運営支援を行い、12月開催予定の医療的ケア児・者支援シンポジウムの運営支援を予定しています。全県対象の研修会等のハイフレックス型の開催支援が主な活動です。

【今後の活動について】

当会でも機材は買いそろえましたが、使いこなせる人材の確保に苦労しています。研修会等は4地区持ち回りで開催するため、各地区にICTを扱えるメンバーを増やしたいと思っています。ICTプロジェクトに登録して一緒に活動してみませんか？

「興味がある！」「メンバーに加わってもいい！」と思われる方は事務局まで連絡ください。



「障がいを持つ方の地域生活の実践を知ろう！」

菅 野 明 子（ふらっと相談支援センター）

上伊那ブロック学習会が8月10日に行われました。会場13組15名、オンライン16組17名（障がいをお持ちの方とその家族の方が数組）の参加がありました。

テーマは「障がいを持つ方の地域生活の実践を知ろう」ということで、進行性筋ジストロフィー当事者である南箕輪村の在住の大角直人さんの講演でした。大角さんは自薦ヘルパー制度を利用して24時間2人体制のヘルパーとともに地域生活を送っています。前半は、自己紹介やC I L（自立生活センター）活動の紹介と実際のヘルパーとの生活の様子、後半は、支援を受けながら生活を送る中で自立とは何か、意思決定支援について思うことを当事者の視点から、話してくださいました。

講演後のグループワークでは、これまで自分たちが関わってきた意思決定支援について支援者として思うことなどを語り合いました。

普段の仕事の中では、自分たちの支援について、当事者の方から率直な話を聞く機会は、なかなかありません。あらためて当事者目線の意思決定支援という認識をもつことができました。

大角さんは、普段は同じ立場から当事者の自立生活についての支援活動をしており、この学習会をきっかけに、新たな参加者の方とも、個別につながりがもてたようでした。



会 員 著 書 紹 介

図解でわかる生活保護



生活保護制度や生活困窮者自立支援制度をはじめとした、貧困状態にある人を支えている制度の概要を図解でわかりやすく解説。制度を活用する際の事務手続きの流れや事例も盛り込んでいる。（参照：中央法規出版ホームページ）

編著者の鈴木忠義会員（長野大学教授）は「はじめに」、第1章「貧困とは？」、第2章「生活保護制度」を執筆。第8章「支援制度の活用事例」の「05 生活福祉資金貸付制度を通じて」さん世帯の自立を包括的に支援した事例」は中村正人会員が執筆した。

編著者：鈴木忠義（東信地区）
著 者：中村正人（南信地区）
出版社：中央法規出版
発 行：2025年1月
価 格：2,420円（税込）

福祉開発マネジャーは 何を開発しているのか 社会参加の応援レシピ



「福祉開発マネジャー」とは、日本福祉大学大学院で2015年度にスタートした「地域再生のための『福祉開発マネジャー』養成プログラム」で用いられた独自の名称。福祉とまちづくりの融合の方法や国際協力の経験知を国内の福祉等分野に活かす人材養成をめざした。

このプログラムが10年をもって終了することから、本書は、その「フィールドワーク」を再現し、実践の振り返りに応用するための「レシピ作り」を行ったもの。（参照：CLCホームページ）

丸山健太会員は第Ⅱ部第7章2節「里山整備が生み出す自然な味付けレシピ」を執筆。安曇野市での実践を紹介している。

編著者：平野隆之
執筆：丸山健太（中信地区）
出版社：全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
発 行：2025年3月15日
価 格：2,200円（税込）

「対人援助職の職場環境とところについて語ろう」

2025年8月30日、小諸市市民交流センターに26名が参集。まず竹中正文会員（社会福祉法人小諸学舎／佐久広域連合障害者相談支援センターコーディネーター）から「主任相談支援専門員へのアンケート調査から見えてきたもの」について講義。次に小林彩子会員（佐久市中込「リボンカフェ※」店主／こども福祉応援センターうえだ こころの談話室「ハート」相談員）が「対人援助職の燃えつきとセルフケア」について解説。その後のグループワークでは「それぞれの職場で実践していること 取り組みたいこと」「セルフケアで実践していること」を話し合い、発表。その後開催された懇親会でも「燃えつきからの回復過程」をたどれた会員もいるようです。社会福祉士会の活動・学習会なども、自宅や職場とは異なる「第3の居心地の良い場所」になりますように。

※リボンカフェについては「信州ぐるっと」（8ページ）をご参照ください。



南信州ブロック学習会

地域のたからを、地域で育む

～ 南信州地域のこどもたちを支えるために ～

9月18日に飯田市勤労者福祉センターさんとぴあ飯田にて、南信州ブロック学習会が開催されました。風越乳児院フォostリング機関「にじ」里親総合支援員の武田実咲会員を講師にお招きし、里親制度を取り巻く現状、課題および取り組み等について参加者13名で学びを深めました。

近年の児童養護では、家庭養育が推進されて里親制度の重要性は高まっているが、制度に対する世間の認識や理解は十分ではありません。フォostリング機関（里親支援機関）「にじ」では、制度の周知啓発に力を入れて土壌づくりに励んでおり、「子は地域で育てる」との視点から、昔ながらのコミュニティーが残る南信州地域はこの制度にとって可能性の大きい地域でもあるそうです。

参加者にとってはまだまだ馴染みの少ない「里親制度」だからこそ、講義後の質疑応答では積極的な質問が相次ぎ、「里親制度」が少し身近に感じられるようになった学習会でした。



社会福祉士実習指導者に聞く 「社会福祉士実習の現状と課題について」

氏 名：西川 智美

所 属：社会福祉法人大樹会
べるぼーとまるこ西

業務内容：

養護老人ホームの生活相談員として入退所の手続き、入居者様の生活支援（相談・悩み事などの傾聴）、ご家族や行政との連絡調整を主に対応しています。入居者様との関わりを大切にしながら日々の業務をしています。

癒やしの時間：

私の癒し時間は、大学の友人たちと会うことです。友人たちから元気をもらい、また頑張ろうという気持ちになります。友人たちと過ごす時間が居心地よく、私の癒しです。あと、フェルト作品を見るのも好きです。



氏 名：北嶋 昭

所 属：社会福祉法人長野県社会福祉事業団
水内荘

業務内容：昭和37年設立の障害者支援施設（入所・通所・短期入所）の所長

癒やしの時間：

バイクに乗っているときです。何を始めても三日坊主（三日じいさん）の私が40年以上続けています。乗れなくなるまで乗り続けます。Bon Jovi 風に言うとIt's My Life です。日本海に沈む夕日めざして雨の中をひた走り…ゴールの景色はさまざまです。



＜社会福祉士養成実習の受け入れ状況＞

特別養護老人ホームと養護老人ホームで実習生1名ずつ受け入れています。実習先が同じ施設内であることで、実習生同士が顔を合わせられる距離間にあり、お互い情報共有が出来ることもフォローし合えるのではないかと思います。また、実習指導者同士も進行状況の確認ができ、お互い協力しながら実習が進められると感じています。

＜社会福祉士養成実習の受け入れ状況＞

- ① 所属先の実習生受け入れ状況
年間1名から2名を受け入れ。長野市内を中心に現役の学生だけでなく社会人実習生も受け入れています。
- ② 実習受け入れで工夫していること
水内荘をメインとして、法人内の複数の事業所やサービスを知るための実習計画を立てています。趣味や特技を持っている実習生には、利用者の前で発表の場を用意します（例：楽器の演奏）。

＜実習指導者として心がけていること＞

これから始まる実習に対し、不安と緊張があるかと思います。少しずつ慣れてもらいたいため、気軽に声をかけ、気持ちに寄り添えるように心がけています。また、実習生と1日の予定を確認しながら進めることも大事にしています。実習生と実習指導者がお互い相談し合える関係作りが出来るように関わっていかねばと思っています。

＜実習指導者として心がけていること＞

- ① ソーシャルワーカーとして大切にしていること
着眼大局着手小局
- ② 実習生に伝えていること
『木』を見て『森』を見て『山』を見る。一点の景色だけを見ないこと。
入所施設であっても、常に地域を意識する。

＜実習生受入れの課題について＞

実習生が学びたい実習テーマを中心に実習計画を立てつつ、実習プログラムの項目にも出来る範囲で対応するように考えていますが、いざ実習が始まると、対応が難しい項目が出てしまい、これはどこに当てはまるだろうかと悩む場面がありました。新カリキュラムのシステムに慣れていけるように今後努力していきたいと思っています。

＜実習生受入れの課題について＞

実習指導者のスキルアップ。実習入れ期間は『こんな指導でいいのだろうか？』と悩む日々です。法人全体で取り組む意識づくり。新カリキュラムへの対応。実習指導者同士の横のつながり、情報交換等積極的なコミュニケーションをとりたいと思います。

＜これから社会福祉士を目指す方々に期待すること＞

社会福祉士は人対人の仕事です。大変なときもありますが、人の役に立てたとき、支えになれたときにやりがいを感じます。社会福祉士として、私は人に寄り添える気持ちと傾聴する姿勢、そして、相手の立場になって考え、行動ができることが大切だと思っています。これから社会福祉士を目指す方々に心がけてもらえると幸いです。

＜これから社会福祉士を目指す方々に期待すること＞

30代なかばのことです。社会福祉士資格取得を目指し、受験資格を得るべく専門学校の通信教育を受講しました。その学校の校是は『介護なくして福祉なし』でした。当時私は『介護員』でしたので、その言葉には大いに共感しました。社会福祉士の業務は多岐にわたりますが、一度は介護（支援）業務を経験してほしいと思います。

今回の特集では、社会福祉士実習指導者として将来の社会福祉士育成に携わる会員から、実習の受け入れの状況と課題、ソーシャルワーカーとして大切にしていること、これから社会福祉士を目指す方々に期待すること…などを語っていただきました。

氏 名：丸山 沙織

所 属：池田町役場 健康福祉課
ふくしの相談係

業務内容：

地域包括支援センター部門（直営）を担当しています。日々、相談支援業務を行ったり、地域ケア会議の運営等を行い、地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいます。

癒やしの時間：

海外ドラマ「Emily in paris」を視聴することです。物語に出てくる街並みやファッション、アート、音楽がどれもきれいでおしゃれで癒されます。



氏 名：味澤 俊介

所 属：社会福祉法人岡谷市社会福祉協議会

業務内容：

意思疎通支援事業（手話奉仕員養成講座・手話通訳者設置事業・意思疎通支援者派遣）、赤い羽根共同募金事務、生活福祉資金貸付事業（窓口対応）、広報など、多岐にわたる業務を担当しています。

癒やしの時間：

子どもと遊ぶ、手話サークルへの参加、ピザ作り、アマチュア無線など

ピザは400度以上の高温が必要のため、魚焼きグリルで焼いています。

畑ではバジルとトマトを育てています。



<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

① 所属先の実習生受け入れ状況

令和5年度：ソーシャル実習Ⅰ 4名

令和6年度：ソーシャル実習Ⅰ 2名

ソーシャル実習Ⅱ 3名

② 実習受け入れで工夫していること

事前訪問時に、実習生がどのような実習をしたいか確認します。さまざまな分野を広くみたいのか、または一つのケースを深めたいのか確認しています。

<社会福祉士養成実習の受け入れ状況>

① 所属先の実習生受け入れ状況

令和7年度はソーシャルワーク実習として、60時間と180時間の2名を受け入れました。

② 実習受け入れで工夫していること

実習指導者は3名おり、社会福祉協議会の特徴を活かし地域福祉・権利擁護・介護・障がい分野など幅広い業務を経験できるよう工夫しています。また岡谷市や他の社協、団体などと連携し、実習の充実を図っています。

<実習指導者として心がけていること>

① ソーシャルワーカーとして大切にしていること

私は人とのつながりを一番大切にしています。自分が困ったときに助けてもらい教えてもらう。そして、自分も誰かの力になれるよう人との繋がりを大切にしています。

② 実習生に伝えていること

質問する際は、まず自分の考えを伝えてから聞くようお願いしています。そうすることで実習生の考えがわかり、お互いに理解や考えが深まるからです。

<実習指導者として心がけていること>

① ソーシャルワーカーとして大切にしていること

社会福祉士の倫理綱領やソーシャルワーク専門職のグローバル定義を、実習後の振り返りの題材としています。自己覚知に時間を取るようになっています。福祉の現場で働くプロフェッショナルをみながら自分のモデルと出会えるように取り組んでいます。

② 実習生に伝えていること

事業の背景を理解し学ぶよう実習生に伝えています。単なる体験で終わらせず、根拠法や制度、これまで学んできた知識を関連付けることで、専門職としての成長につなげるよう心がけています。

<実習生受入れの課題について>

課題は感じていません。実習生を受け入れることにより、私自身のスキルアップにもつながっていると実感し、ありがたい機会となっています。

<実習生受入れの課題について>

現在の体制では、実習生の受け入れ人数を大幅に増やすことが困難です。また、新カリキュラムで求められるモデル基本実習プログラムを十分に実施するには至っておらず、本会の特色に沿ったプログラムへ調整しながら対応しているのが現状です。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

社会福祉士の仕事は、人の人生に寄り添い、その人らしい生き方に携わります。時には迷いや葛藤を感じる場面もあります。そんなときに倫理綱領は私たちの拠り所になりますので、大切に学びを深めていただくと今後に活かされると思います。

<これから社会福祉士を目指す方々に期待すること>

専門職の要件には「職能団体を有すること」や「倫理綱領が存在すること」が含まれます。社会福祉士として登録後は、ぜひ長野県社会福祉士会に加入し、専門職としての学びとつながりを深めながら活動を広げていってほしいと期待しています。

「学校現場で働く社会福祉士として」

小 林 翠（東信教育事務所チーフスクールソーシャルワーカー）

「子どもというのは放たれた矢であり、親は字の如く、木の上に立って見るんだよ」これはわたしが育児に思い悩んだ時にある医師から言われた言葉です。

わたしたちスクールソーシャルワーカーが会える児童生徒さんは生育歴など様々な背景を抱えるお子さまも多いですが、皆、お母さんのお腹の中で10ヶ月という時間をかけて育まれ、この世界に生を受けた子どもたちです。時には困難な状況に直面しているとしても、誰もが可能性を秘め、自分らしく輝ける人生を歩むことができる。そのようなことを意識しながらケースに向き合ってきました。

スクールソーシャルワーカーの職務内容は、不登校、いじめ、非行・暴力行為、児童虐待、貧困などの家庭環境の課題から友人関係、心身の健康や発達障がいに関する相談、LGBTQ、SOGIなどの性自認に関する相談まで多岐にわたっていますが、チーム学校の一員として、ミクロからメゾ、マクロに至る広範な活動を展開できる特徴があります。

「子どもたちの未来が幸せでありますように」そのようなことを願いながら、微力ではありますが、これからも学校福祉における支援の要として、日々、精進してまいりたいと存じます。

* 次号は、社会福祉法人みまき福祉会 田丸 一成さんにバトンタッチします。



信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

「誰かの「心の安全基地」となれるような場を目指して」

小 林 彩 子（Reborn Café店主 セキュアベース合同会社代表）



昨年の6月、佐久市中込の駅前商店街に、ソーシャルワーカーのいる店として「Reborn Café（リボーンカフェ）」を開店して1年4カ月が経過しました。福祉に携わってきた社会福祉士2名で、ソーシャルファームとして仕事につながりにくい方々の雇用の場や体験的就労の場として機能したり、どこに相談して良いかわからない方が気軽に立ち寄り、誰かの安全な居場所となればと考えて始めました。

開店からこれまでは、障害者手帳を持った6名の方々にアルバイトとして店を支えてもらい（卒業して一般就労についた方もあり）、精神保健福祉士はじめさまざまな医療機関や臨床心理士さんに勧められて…と来店される相談者の方がいたり、逆にこちらから行政機関や医療機関等につないでいる。

お客様も多様で、普通にランチやお茶をしに来店される方も勿論いますが、視覚障がいや重度心身障がいのある方で初めて喫茶店に来ましたという方がいたり、親の介護をされている方が時々息抜き兼ねて報告しに来てくれたり。自分たちが思い描いた活動に少しずつ近づいているとも感じますが、この所の物価高をはじめとした飲食店経営の厳しさもあり、経営課題に直面している実情もあります。

カフェでは日替わりランチをはじめテイクアウトの弁当や総菜、焼き菓子など飲食の他、物販（障がいのある方のハンドメイド作品やリサイクル品販売）も行っています。

日曜と第3水曜定休、無料相談は水・木以外の14：30以降を目安に行っております。

小さな支援拠点の一つとしてこれからも機能できたら嬉しいです。

皆様の自由で多様な関わりもお待ちしております（連絡先：070-4450-6887）

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<https://nacs.jp/>）をご確認ください。

日時（曜日）	事業名・研修名	会 場	備 考
12月2日(火)	福祉関係者のための成年後見制度活用講座	浅間温泉文化センター	
12月7日(日)	医療的ケア児・者支援シンポジウムin南信	飯田市勤労者福祉センター Zoomオンライン	講師：平沢康弘氏

◎ 入会状況（2025年9月末現在） * 会員数：1,261人 入会率：23.11% 人口10万人あたりの会員数：63.46人

編集後記

学びの秋が終わりを迎え、冬を迎えようとしている今日この頃です。

学習会や研修会で研鑽を重ねている方々、それらの企画や講師を務めている方々、実習指導で後進の育成を支援している方々、大変お疲れ様です。「学び」って大切ですね。私、ここ数年受講したいと思っている研修会があるのですが、都度スケジュールが合わず受講が叶わずにいます。来年こそは！！

「自分の無知に気づけば気づくほど、より一層学びたくなる。」（アルベルト・アインシュタイン）（D. K）